

# 国際観風協会

町おこし団体などが設立

ありきたりの観光ではなく、地域の息遣いを感じて自ら楽しみを発見する「観風」の概念と環境整備を広めようと、町おこし団体やアーティストラが任意団体「国際観風協会」(大阪市阿倍野区)を設立した。安宿に泊まりながら現地の暮らしに触れるのを好むバックパッカーら旅行者に対応するのも目的で、情報発信や安宿の普及に意欲をみせている。

国や自治体が観光施唱

策に力を入れる中、同 そのスタイルの一つ協会は、飽きられる可 としてバックパッカー能力がある特定の観光 があるものの、企業組地の散策ではなく、ぶ 合、ヒューキヤックらぶらあてどもなく漂 代表理事として町おこ泊し、地域の暮らしが し企画などを手掛けてりから旅行者自身に面 いる同協会の染川明義白がって発見を繰り返し 代表五七は、日本はバす「観風」の概念を提 ックパッカーへの環境



国際観風協会の設立に立ち会うメンバーら

## 自ら町の魅力発見を 情報発信や安宿設置へ

が十分ではない」と指摘する。

世界各国では千一 千五百円の安宿が各地

そこで、古い民家や商店街の空き店舗を活用した安宿設置の必要性を強調。その効果として、海外を含めた旅行者の増加をはじめ、高齢者らの収入につなげてもらったり、雇用を創出するなど、地域経済の活性化を見込む。染川代表らが町おこしに取り組む大阪府泉佐野市では、開設を検討する住民らも現れている。

低価格で気軽にできる旅行環境を目指す一方、染川代表は、歩く人の感性が大事になってくる」と指摘。案内された場所に連れられる受け身ではなく、自ら町の魅力を発見して楽しむことが大切」と話す。

こうした趣旨に賛同するアーティストや有識者ら十数人で今年四月、同協会を設立。古長屋を改装したカフェで事務所を兼ねる「コイズカフェ」にメンバーが集まった。

今後は観風の参考になるまち歩きや、インターネットを使った映像配信なども手掛けていく方針。染川さんは「観風の考え方を広げていきたい」と意欲をみせている。問い合わせは、電話090・6666-6153、ヒューキヤックへ。

にある」とする中、大阪では日雇い労働者が集まる釜ヶ崎地区、大阪市で、労働者向けに発展してきた泊数千人の安宿があるもの、基本的には安宿泊まる場所がないのが理由の一つだ。